

学生生活の向上と医学部の発展に向けて

東北大学医学部後援会会長
舟山 真人

全ての国立大学が法人化され、従来にも増して弾力的かつ自律的な運営の元、公開と評価の中で競争力を固める努力が大学に求められています。

一方で、さまざまな問題点も指摘されているようですが、最も大切なことは、本当に学生のためとなる教育の検討と実施です。当然のことながら、一人の学生に対し、同時期に異なった教育を行い、それを比較することができません。しかし、集団としての年毎の比較は可能であり、ここ最近、新しく導入された教育プログラムの多くは着実に効果を挙げているようです。特に、今年の医学科新入生は、基礎医学生物学という新しいカリキュラムがスタートし、より早く医学の楽しさに触れることができます。

では昔の教育が悪かったか、というところではありません。ただ医学・医療の情報量の急激な増大で、修得すべき知識量が格段に増えたことへの十分な対応が必要となってきています。加えて最近、勉学に対して「受け身」姿勢が目立つ学生が以前にも増して見られるようですが、そのような学生のモチベーション向上の方策、といったこともあげられるかもしれません。

さて、ここまでお読みになった会員の皆様は、普通の差し障りのない挨拶から始まる後援会会長の挨拶文とは異なるのにお気づきかと思えます。

実は、医学部後援会は、今年で発足3年目の若い会です。発足当時の動きは、後援会会報No.1(平成20年7月発行)[東北大学医学部のHP⇒後援会に入っただけであれば閲覧できます。]に書かれていますので省略いたしますが、大学だけでは難しい、学生の学内生活の支援を後援会として担うことになったわけです。そして、会の運営が軌道に乗るまで、医学部教員で、かつ教務委員でもある私、舟山がご父兄の方々と、大学との橋渡しの役目をしましよと引き受けた次第ですので、少し教員の視点から冒頭の一文を書いてみました。



もくれん [医学部1号館前 (H.22.4.21撮影)]

さて、わが後援会ですが、発足直後から、医学部における教育改革に併せ、必要な支援を行ってきています。実施した事業数も発足初年度は5事業でしたが、2年目の昨年度は10事業と倍増しています。特に、新入生オリエンテーション支援は全ての新入生が対象となりますし、課外活動運営費への援助、オープンキャンパスへの支援は参加した全学年が対象となります。また、現在、図書経費の負担増とともに、学生に対し十分な参考図書の購入がままならない事態となっていますが、それに対し学生図書の整備として、授業に使用する頻度の高い参考書を複数セット購入しました。

このように後援会は、着実な活動を展開しております。もちろん本年度も、より一層、活発な事業を計画し、学生生活の向上と医学部発展の一助となるよう、運営したいと思っていますので、会員の皆様方のご理解・ご協力を賜りますようお願い申し上げます。

なお、今年の新入生入学記念祝賀会は、多数のご父兄・新入生、そして教職員の方々の参加で身動きもできないほどでした。昨年、一昨年の参加人員の3倍ということで、大幅な人員増を十分予想できなかった不手際をこの場をかりてお詫びいたします。その一方で、多くの皆様が参加していただいたこと、感謝の気持ちでいっぱいです。次年度は広い会場を確保しましたので、ぜひ、在校生のご父兄の方々もお時間がありましたらご参加してください。

最後に、辛酉会（東北大学病院を支援・援助する財団法人）から、この入学祝賀会に多大なご援助をいただいたこと、併せてお礼申し上げます。ありがとうございました。

医学部学生の保護者の皆様へ、新入生を迎えて

— 保健学科と学生厚生 の立場から —



東北大学医学部
副学部長・副研究科長（学生厚生・教職員担当）

進藤 千代彦

平成 22 年 4 月 6 日に東北大学入学式が挙行され、本年も医学部、保健学科の学部学生とともに、医科学専攻、障害科学専攻、保健学専攻の大学院修士課程、博士課程の新入生を迎えることができました。

保護者の皆様へ心からお慶び申し上げますとともに、大切なご子息・ご息女の教育・研究、人材育成に関わっている大学教員の一人として身が引き締まる思いでございます。

まず、最初に保健学科の近況からお話したいと思います。保健学科は、医療技術短期大学部から 4 年制化を行い、さらに大学院修士課程及び博士課程の設置を年次進行で行ってきました。今年度に博士課程第一期生を迎えることができました。3 年後には保健学専攻から「看護学博士又は保健学博士」の学位を修得する修了生を送り出すことになります。

保健学専攻の博士課程は、看護学、放射線技術科学、検査技術科学の 3 コースからなり、保健学科を卒業し保健学専攻修士課程からの連続性があり、それぞれのコースへの入学しやすさがあります。入学定員は 10 名ですが、今年度は 14 名の入学がありました。カリキュラムは、共通科目、専門科目などの授業科目のほかに、特別研究科目としての学位論文を含めて 16 単位の取得が必要です。博士論文の審査を経て、最終試験に合格すると、看護学コース修了者には「博士（看護学）」、放射線技術科学コース又は検査技術科学コース修了者には「博士（保健学）」の学位が授与されることになります。

昨今の高学歴社会において、東北大学は保健学分野においては遅れを取っていましたが、これで保健学に関連する修士、博士の学位を授与することができ、大学院大学としての体制が整いました。日本のみならず世界の看護学、保健学を牽引できる優れた教育者・研究者の育成が目的ですが、保健学に関する世界的水準の教育・研究拠点として成長することが期待されます。

次に、学生厚生担当の立場から、本学におけるハラスメント対策の仕組みについて説明したいと思います。

学業・研究を続けていくに当たって、順風満帆に学業・研究を成就できれば、このような相談をするような機会は全く無いと思いますし、多くの学生はそうにして無事卒業しております。

しかし、一方で様々な悩みを抱えるような事態に遭遇することも多々あることかと思えます。学部学生に対しては、チューター制度を採っていますので、学業などの悩みについては担当のチューターに尋ねるのが一番の解決法と思います。もちろん、親しい先生に尋ねることも可能ですし、多くの先生方は親切に対応してくれます。しかし、パワーハラスメント（教育研究ハラスメント）やセクシュアル・ハラスメントについては、恥ずかしいとか他人に知られたくないなどの理由で、つい我慢しがちですが、東北大学では下記図に示すような相談・申立ての仕組みを整えて実際に運用されております。

もしトラブルに巻き込まれた場合、相談者は全学相談窓口である学生相談所(川内地区)に相談に行きます。昨年 10 月には、星陵地区に「学生なんでも相談室」が開設され、大変便利になりました。専門の相談員に相談した後で解決する場合はそれで終了となります。ただし、より深刻なトラブルでそれだけで解決が望めない場合は、全学防止対策委員会に申し立てをすることができます。

申し立てには、「調整」、「調停」、「調査」の三つの段階があり、調査は最も深刻な場合になります。それぞれの委員会を経て、問題解決に向かうこととなりますが、この委員会でも不服な場合は、最終的に裁判に持ち込まれることもあるようです。

このような仕組みを御紹介したのは、私がおの対策委員に任命されていることがありますが、パワハラやセクハラ問題は、相談するにも相談できない悩み深い問題で、泣き寝入りになったり、強いストレスで精神的な疾病に陥ったり、学業の継続が困難になったりすることが現実起こり得ます。しかし、このようなハラスメントに遭遇しても、この相談・申立てシステムを利用していただければ、適切な助言をもらうことができ、さらに当該問題を解決し、元の学生生活に戻っていただくことが可能です。これが、委員としてのささやかな希望です。幸いなことに、星陵地区では、ここ数年間で新聞紙上をにぎわすようなパワハラやセクハラ問題は起こっておりません。心から、安心して通えるキャンパスであることを切に望んでおります。

相談・申立ての流れ

相談・申立ての流れは次の通りです。



「ハラスメントの防止と解決のために」のパフレットから引用

医学分館学生用図書の整備・充実について

東北大学図書館医学分館長

柳澤 輝行

医学分館は、星陵キャンパスに位置し、医学系の図書館として、学生及び教職員の研究教育に必要な図書や快適な学習スペースを提供しています。

医学系の学生に必須の教科書・参考書は多数ありますが、なかでも基本中の基本といえる『細胞の分子生物学』『ハリソン内科学』の新版が、昨年末から今年にかけて相次いで刊行されました。これらの図書は高額なため個人的に購入するのは大変な負担を要します。医学分館においても十分な部数を備えるのが予算的に難しい状況にありました。

このような状況について医学分館長から医学部後援会会長にお話ししましたところ、御理解をいただき、この度、医学部後援会からの御厚意・支援により、『細胞の分子生物学（第五版）』を5部及び『ハリソン内科学（第三版）』（2分冊）を3部につきまして、一度に揃えることができました。この場をかりて厚くお礼申し上げます。

今年の2月に備え付けの新着コーナーに別置き、利用に供して以来、試験期と重なったこともあり、館内で連日よく利用されています。また、これらの図書は部分的に参照するための大

事な資料であり、本来、貸出には向かないものなのですが、この2か月での貸出は20回を数えています。これを見ても学生にとっては非常に有益な図書であることを確信いたしております。

新入生を迎えるにあたり、これからも意欲ある学生が自学自習に不自由を感じることなくいそめる環境が提供できればと考えております。御支援いただき、大変ありがとうございました。

（※柳澤分館長は、平成21年度末をもって任期満了）



医学部医学科謝恩会の報告

医学科謝恩会実行委員会代表

赤石 哲也



平成21年度東北大学学位記授与式（卒業式）が実施された去る、3月25日（木）の夕方6時から、医学部医学科謝恩会を江陽グランドホテル鳳凰の間にて開催いたしました。

この会を開催するに当たり、医学部後援会様、良陵同窓会様、辛西会様をはじめ多くの協賛団体の皆様より御援助を賜り盛大な会を開くことができましたことについて、まずこの場をお借りして心よりお礼申し上げます。

謝恩会の模様は、学生代表の挨拶に引き続き、山本 雅之医学部長より御祝辞をいただきました。

『欧米では、学位記授与式のことを commencement と言い、

その単語には開始・始めという意味もあります。つまり君たちは新しいスタートに立っているのです。』というお言葉から、これから始まる初期研修に向けてますます志高く努力しようというインセンティブを与えていただきました。

その後、星陵アンサンブルに所属する卒業生2名による演奏が披露され、会場内での歓談に優雅な華を添えてくれました。宴もたけなわに入った後半には、本年度で退官される教授より、温かいお言葉をいただきました。最初に、救急部の篠澤 洋太郎教授より、『集団の中での和はもちろん、自分の心の中での和も大切にしてください。』とのお言葉をいただきました。

続いて、心臓血管外科の田林 暁一教授からは、『常にじっくり物事を考え、深く洞察する姿勢を忘れないでください。』との御指南をいただきました。

閉会にあたっては、柴原 茂樹教授、堀井 明教授、福田 寛教授及び石井 誠一先生より歓送のお言葉と、卒業生との思い出話などを交えながら頂戴し、大学の行事に参加した頃のことや、教室での講義の頃の



ことなどを懐かしく思い出しました。

この会の最後に、里見 進病院長より、『今後、様々な場面でリーダー役をやらされることが出てくるでしょう。真のエリートたるために必要なことは何なのかを常に自分に問い掛けながら、今後もより一層邁進してください。』とお言葉をいただき、一本締めにて盛会を締めいただきました。

その後、会場を移動して行われた二次会においては、ライブハウスを借りきって、卒業生による軽音楽の演奏のもと盛大に行われ、今後数年間の別れを惜しみつつ、お互いに将来の再会を約束しました。卒業生一同、在学中に医学部より賜った御厚意に改めて感謝すると共に、医学部及び後援会様の今後の

更なる御清栄を心より祈念させていただきます。本当にありがとうございました。今後どうぞよろしく御指導をお願いいたします。



医学部保健学科謝恩会の報告

保健学科謝恩会幹事代表

住岡 譲太郎

去る、平成22年3月25日(木)夕刻に、保健学科の謝恩会をホテルメトロポリタン仙台において行いました。

当日は、みぞれ雪まじるあいにくの天候でしたが、100名近い多くの先生方や病院・施設関係者の皆様に御出席いただきました。

最初に、山本 雅之医学部長からは、『『noble obligation』君たちは社会から期待されている高貴な仕事に就くのだという自覚を持ってほしい』というお言葉をいただきました。

続いて、吉沢 豊子保健学科長と各専攻長からも「ここで培った『自分の頭で考える』ことを忘れるな」、「やさしさを大切に」といったお言葉をいただき、ここ東北大学医学部で学んだことを生かし、社会に真に貢献できる人間になろうと改めて決意した次第であります。

歓談の時間では、先生方や病院・施設関係者の皆様方から、医療者として働く上で大切なことを教えていただき、思い出話に花が咲くなど非常に有意義な時間を過ごすことができました。また、保健学科の謝恩会では初の試みとしてビンゴ大会も大変盛り上がりしました。

多くの先生方から「本当に良かったよ」と仰っていただいた謝恩会を開くことができ大変嬉しく思います。まだまだ未熟ではありますが、東北大学で学んだことを胸に、医療者としての芯を持って、日々精進していきます。

最後になりましたが、ずっと支え続けてくださいました、東北大学医学部後援会の皆様方への感謝の意を伝え、謝恩会の報告とさせていただきます。本当に、ありがとうございました。今後も御指導いただけますようお願いいたします。



医学部 AO 入試合格者との懇談会開催について

医学部医学科長 柴原 茂樹

医学部保健学科長 吉沢 豊子

平成22年度医学部AO入試合格者との懇談会を、去る2月16日(火)に次のような趣旨で開催いたしました。

- キャリアパス支援の一環として、早期に医学部教育や大学院進学制度等を説明する。
- 入学前に課題を与え継続した学習を促す。

この懇談会は始めに、医学部大会議室において、医学科と保健学科の合格者を集め、伊藤 貞嘉副学部長・副研究科長から挨拶があった後に、学科ごとに別れて教員・大学院学生との懇談会を行いました。



● 医学科においては、昼食を取りながら自己紹介・歓談を行い学部教育や大学院教育についての説明を行いました。

今年の新入生は、研究医養成のために医学部定員を増員した最初の学生ですので、新たな研究医養成プログラムの内容を紹介し、将来、東北大学を担う医学研究者・医師を目指して欲しい旨の説明がありました。

また、大学院学生や若手教員による医学生時代の体験談や研究活動などの披露があった後に懇談が行われ、新入生

に対して良い刺激を与えることができました。懇談会終了後も、新入生同士での会話が弾み、大学生活での最初の友達を作ることができたようです。

● 保健学科においては、はじめに保健学科大会議室において、全体説明と大学院学生による研究紹介などを行いました。

その後、看護学、放射線技術科学、検査技術科学のそれぞれの専攻に分かれて昼食を取りながら懇談会（質問コーナー）を行いました。

懇談会においては、大学院学生を交えて研究活動や学生生活などリラックスした雰囲気話しが弾み、新入生にとって大変有意義な懇談の企画となったようです。

最後になりましたが、この懇談会を開催するにあたり、医学部後援会の御理解をいただき昼食等の必要経費の助成・御支援をいただきました。大変ありがとうございました。



医学部医学科三年次基礎医学修練発表会について

医学部医学科運営委員会

委員長 柴原 茂樹

医学科基礎医学修練発表会

実行委員会委員長 佐藤 圭亮

平成 21 年度の基礎医学修練発表会が、去る 3 月 8 日から 11 日の 4 日間にかけて行われ、61 演題という昨年度の倍近い演題数で大成功を収めることができました。どの発表も意欲的で、活発な議論がなされ、基礎医学修練の総括に相応した有意義なものであったと確信しております。

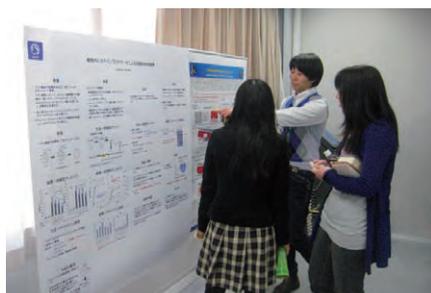
昨年度からの変更点として、聴講者の理解を助けるために、ポスターを各々の学生に作成してもらい、発表会の初日と最終

日にポスターセッションを行いました。ここでも活発な議論がなされ、自分野の理解が深まったのみならず、他分野への関心を興すことにも繋がったかと思えます。

この度の基礎医学修練発表会は、多くの方々に支えられて成功を収めることができました。特に、医学部後援会のご支援により、ポスターセッションを新たに企画・実施することができました。ご高配に対し心よりお礼申し上げます。



活発な議論



今年度から実施したポスターセッション



優秀発表者表彰式

平成 22 年度 医学部新入生オリエンテーションを実施しました

医学部医学科長 柴原 茂樹

医学部保健学科長 吉沢 豊子

去る、4月7日（水）に保健学科学生、また、4月8日（木）に医学科学生を対象とする新入生オリエンテーションをそれぞれ実施しました。



医学科集合写真

- 医学科では、午前には山本 雅之医学部長の挨拶に始まり、教育課程等の説明を行い、昼休みは新入生とアドバイザー教授との昼食懇談会を行いました。

新入生を4～5名の小グループに分け、アドバイザー教授の研究室で昼食を取りながら、和やかな雰囲気ですぐに懇談することができました。

午後は、学生会が企画した特別講演とサークル紹介を行いました。

また、特別講演は、在校生の推薦により、脳トレで活躍の川島 隆太教授（加齢医学研究所）及び教育熱心で定評のある荒井 陽一教授（医学部泌尿器科学）から講演をいただきました。



新入生オリエンテーション
医学科



在校生による
サークル紹介

最後に、30に亘る医学部学生会サークルの紹介がありました。

- 保健学科では、午前には全体の「保健学科オリエンテーション」と専攻ごとに分かれた「専攻オリエンテーション」を行いました。

お昼には、昨年からはじめた「チューターとの昼食懇談会」を行いました。

チューターは、学業のことなどで相談相手となる教員で、学生個々に担当教員が決まっております。

この昼食会は、学生とチューター相互の面識を深めることを目的として行っており、思い思いの場所でお弁当を広げてなごやかに行われました。

午後は、今年初めての企画で、入学後の必須知識である情報セキュリティの講習会が行われ、学生は真剣な面持ちで聞き入っていました。



新入生オリエンテーション
保健学科



懇談の様子

また、今年の新入生には生物のテキストを配付し、医学は生命現象を探究する学問であり、基本となる生物学を振り返って自学自習してほしいとの希望が込められています。

なお、本年も医学部後援会から昼食等に要する経費の御援助をいただき、お陰様で大変有意義な新入生オリエンテーションを実施することができました。ありがとうございました。



入学記念祝賀会が行われました

後援会の本年度最初の事業として、平成 22 年 4 月医学部にご入学された新入生とその保護者の皆様を対象とした「入学記念祝賀会」が、去る 4 月 6 日（火）午後 1 時 30 分から、仙台駅に隣接する「ホテルメトロポリタン仙台」において開催されました。

最初に、山本 雅之医学部長の挨拶、次いで舟山 真人後援会会長から挨拶の後、財団法人辛酉会の平則夫理事長から来賓祝辞をいただき、大友 弘美後援会副会長による乾杯のご発声の後、入学祝賀パーティが賑々しく開催されました。

その後、柴原 茂樹医学科長及び吉沢 豊子保健学科長から、各学科の説明と歓迎のスピーチ、医学科教授及び保健学科教授によるキャリアパス説明などの企画が行われ大好評で、500 名



を超える参加者（保護者：235 名、新入生：229 名、大学関係者など：54 名、在学生：4 名）との楽しい歓談・懇親の 2 時間が瞬間に過ぎたように思えます。

また、ご参加いただきました保護者や新入生などの皆様から本当に温かな言葉をいただくことができ、大学関係者や在学生との交流ができました。



後援会としては、今回は予測を大幅に上回る多数の皆様のご参加をいただき、会場が手狭であったことの反省を踏まえ、来年度は更に充実した『入学記念祝賀会』を実施できるよう努力したいと思いを新たにしております。

会員の皆様の温かいご支援をいただきますよう、今後もよろしくお願ひ申し上げます。

医学部後援会・事務室

医学科一年生の勉強と生活

東北大学の医学部医学科に入学してもう 1 年が過ぎ、二年生からの本格的な医学専門教育がはじまりました。遺伝学や組織学、生理学、医化学の授業の内容は、ヒトの体について学べる大切な機会ですが、その内容は膨大で難解であり、勉強のモチベーションを維持するのは難しいです。ですが、一年生の時に受けた一次修練や動機付け学習を思い出しながら、自分が受けた衝撃とその時の真剣な思いを忘れずに、真剣に勉強していき

たいと思います。

医学部医学科の一年生の専門教育は夏休み中の 1 次修練から始まります。1 次修練は医療の現場において起る様々な問題について討論（PBL：Problem Based Learning）し、大学病院や外部の施設などを見学し、患者さんのご家族のお話を聞いて、医学や医療についての知識は素人とあまり変わらない一年生が初歩的な知識を学び、自分の目指す道の実際の姿を知っていく

医学部医学科・2 年

金 美賢 (キム ミヒョン)



時間です。

1次修練に引き続き、第2セメスタでは動機付け学習が行われました。

動機付け学習は講義とPBLの二本立てで行われます。講義では医療や医学研究の最先端で活躍する方々のお話を聞いて、医学部を卒業した後に出来る仕事は治療と研究だけではないことを知って、自分の将来の進路を考えるきっかけになりました。PBLでは電磁波や遺伝子病という、最近話題になっている二つのトピックを取り上げて8人ほどのグループで討論しながら、正解が一つではない難しさと、現実の問題を扱う際に考慮しなければいけない事項の数多さを体感しました。動機付け学習で特に興味深かったのは、国境なき医師団日本支部の元会長の白井律郎先生の話で、戦争が行われているところでも人々は毎日自分の日常を営んでいて、限界まで粘って自分の家で暮らすことや、戦争に使われる武器によって出来る創傷の具体例をみて、自分の周りの日常だけが世界の全てではないことを強く感じました。また、結核で毎年二百万人が死んでゆき、九百万人が新たに感染しているのにも関わらず、結核の治療薬は一番新しいものでも40年前に出来たもので、予防接種の効果も疑問視されていることを知って非常に驚きました。

他にも、第2セメスタでは医学部の一年生のほとんどが受講する体と健康の授業がありました。全学教育の科目ではありませんが、医学部の福土審教授が担当し、ほとんどの受講生が医学部生であるため、医学部の専門教育のような雰囲気だったと思います。扱われたのは人体とストレスの関係を主に扱う行動医学(Behavioral Medicine)で、最近社会でも話題になっている過敏性腸症候群(IRS: Irritable Bowel Syndrome)などのストレス病について学び、精神生理理論でストレスが人体に及ぼす具体的な影響と、ストレス病を引き起こすメカニズムについて学びました。内容も非常に興味深く、医療従事者を目指す人ならば誰でも知っておくべき内容であり、一年生のこの時期にこの講義を聞くことができるととても嬉しかったです。

一年生の第2セメスタは受講する講義の数が少なく、ゆったりとした時間を過ごしました。仙台で迎える初めての冬にくじけそうになりながらも、自分が興味を持つ分野の全学教育の講義を聴いたり、仙台市民図書館で本をたくさん借りて読んだり、友人たちと平日の昼にたこ焼きを作ったりと、とても有意義な時間を過ごしました。二年生になった今ではこういったことをする時間をつくることは難しいのですが、今年も市民図書館で色々本を借りて読みたいと思っています。

編集後記

今年の仙台の桜は、4月中旬に満開となりました。

この医学部後援会が発足しまして、3年目の新緑の季節となりました。

平成22年度新入生保護者の皆様には約6割御加入いただき、後援会会費の御協力・御理解をいただきましたことを厚くお礼申し上げます。

去る、4月6日(火)に開催いたしました「入学記念祝賀会」当日は、春間近の好天に恵まれ、500名を超える大勢の新入生、保護者(会員)の皆様及び医学部教職員、在学生の参加をいただき大盛会にて開催されました。

これまでの後援会事業につきましては、入学記念祝賀会の開催、新入生オリエンテーションへの助成、オープンキャンパスへの助成、学生の研究発表会への助成、課外活動運営への助成、学生用の医学図書整備、卒業謝恩会への助成などを行いました。これら事業内容につきましては、その都度、後援会会報に掲載・報告されておりますのでご覧いただければ幸いです。

また、今後につきましても医学科及び保健学科で計画されます様々な行事への助成及び学生の教育活動への支援などを行い、医学部全体の充実をより一層図っていただけるようにしたいと思っております。

なお、医学部後援会のさらなる発展・充実のために、会員

の皆様のお意見や御寄稿をお待ちしております。

後援会事務局あて、郵送又は電子メールでも結構ですので、お寄せくださいますようお願い申し上げます。

医学部後援会・事務局



医学部1号館・5号館



東北大学医学部後援会事務局

〒980-8575 仙台市青葉区星陵町2-1
TEL: 022-717-7870 E-mail: med-koen@med.tohoku.ac.jp
http://www.koen.med.tohoku.ac.jp/